

介護職員初任者研修カリキュラム(通信課程用)

1 職務の理解（6時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
1) 多様なサービスと理解	3時間	【講義内容】 1. 介護保険サービス（居宅、施設）を理解する 2. 介護保険外サービスを理解する
2) 介護職員の仕事内容や働く現場の理解	3時間	【講義内容】 1. 介護サービスを提供する現場の理解 ①居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容を理解する。 ・居宅、施設の実際のサービス提供現場についてDVD教材を使用し介護サービス提供を具体的にイメージする。 ②ケアプランの位置づけに始まるサービス提供に至るまでに一連の業務の流れとチームアプローチ・多職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携を理解する。 【演習】 訪問介護・通所介護・老人福祉施設・介護老人保健施設などの各サービスについて、サービス内容・特徴などをテキスト、DVD教材を参考に演習シートを活用しグループで話しあい、その内容をふまえて講師が整理し総括する 【施設見学】 特別養護老人ホーム・通所介護を見学し、介護職の具体的なイメージを持って取り組めるようにする。
合計	6時間	

2 介護における尊厳の保持・自立支援（9時間）					
項目名	時間数	通学時間	通信時間	添削課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
1) 人権と尊厳を支える介護	5.0時間	1.0時間	4.0時間	2-1-1 ～ 2-1-7	<p>【講義内容】</p> <p>1. 人権と尊厳の保持</p> <ul style="list-style-type: none"> 個人としての尊重、アドボカシー、エンパワメントの視点、「役割」の実感、尊厳のある暮らし、利用者のプライバシーの保護について理解する <p>2. ICF</p> <ul style="list-style-type: none"> 介護分野におけるICF <p>3. QOL</p> <ul style="list-style-type: none"> QOLの考えかた、生活の質について理解する <p>4. ノーマライゼーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ノーマライゼーションの考え方 <p>5. 虐待防止・身体拘束禁止</p> <ul style="list-style-type: none"> 身体拘束禁止、高齢者虐待防止法、高齢者の養護者支援について理解する <p>6. 個人の権利を守る制度の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 個人情報保護法、成年後見制度、日常生活自立支援事業について理解する <p>【演習】</p> <p>施設・在宅における高齢者虐待の事例を基に原因・経過・対応・予防策についてグループで討議する。その後、講師による講評を行う</p> <p>【通信課題】</p> <p>人権と尊厳の保持、重要性を理解する。</p> <p>ノーマライゼーション実現に向けての考え方。</p>
2) 自立に向けた介護	4.0時間	1時間	3.0時間	2-2-1 ～ 2-2-8	<p>【講義内容】</p> <p>1. 自立支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 自立支援とは 自立、自律支援、残存能力の活用、動機と欲求、意欲を高める支援、個別性/個別ケア、重度化防止について学ぶ <p>2. 介護予防</p> <ul style="list-style-type: none"> 介護予防の視点、介護予防の考え方 <p>【演習】</p> <p>自立支援、介護予防という考え方に基づいたケアについてグループで討議、グループ発表を行い講師による講評を行う</p> <p>【通信課題】</p> <p>尊厳を守り、自立支援を行う事の理解と考え方。</p>
合計	9.0時間	2時間	7時間		

3 介護の基本（6時間）					
項目名	時間数	通学時間	通信時間	添削課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
1) 介護職の役割、専門性と 多職種との連携	1.5時間	0.5時間	1.0時間	3-1-1～ 3-1-4	<p>【講義内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 介護環境の特徴の理解 <ul style="list-style-type: none"> 訪問介護と施設介護サービスの違い、地域包括ケアの方向性 介護の専門性 <ul style="list-style-type: none"> 重度化防止、遅延化の視点、利用者主体の支援姿勢、自立した生活を支えるための援助、根拠のある介護、チームケアの重要性、事業所内のチーム、多職種からなるチームを理解する 介護に関わる職種 <ul style="list-style-type: none"> 異なる専門性を持つ多職種の理解、介護支援専門員、サービス提供責任者、看護師等とチームとなり、利用者を支える意味、互いの専門職能力を活用した効果的なサービスの提供、チームケアにおける役割分担を理解する <p>【演習】 多職種連携によるチームケアについて、グループで話し合いを行い、理解を深める</p> <p>【通信課題】 多職種連携における役割、地域包括ケアシステムの理解</p>
2) 介護職の職業倫理	1.5時間	0.5時間	1.0時間	3-2-1 ～ 3-2-3	<p>【講義内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 職業倫理 <ul style="list-style-type: none"> 専門職の倫理の意義、介護の倫理、介護職としての社会的責任について理解する 介護の倫理 <ul style="list-style-type: none"> 倫理綱領 プライバシーの保護、尊重 <p>【通信課題】 高齢者虐待の理解、介護職の倫理観について</p>
3) 介護における安全の確保 とリスクマネジメント	1.5時間	1.0時間	0.5時間	3-3-1 ～3-3-6	<p>【講義内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 介護における安全の確保 事故予防、安全対策 <ul style="list-style-type: none"> リスクマネジメント 感染対策 <p>【演習】 「介護の場面には、どのようなリスクがあるか」グループで話し合い、リスクマネジメントの重要性を理解する</p> <p>【通信課題】 リスクマネジメント、事故防止・安全対策の理解</p>
4) 介護職の安全	1.5時間	1.0時間	0.5時間	3-4-1 ～ 3-4-5	<p>【講義内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 介護職の安全衛生 <ul style="list-style-type: none"> 介護職の心身の健康管理 健康管理の意義と目的 こころの健康管理 からだの健康管理 感染予防 <ul style="list-style-type: none"> 感染管理 衛生管理 <p>【演習】 感染症対策を踏まえた手洗い、うがいの演習により理解を深める</p> <p>【通信課題】 介護職の健康管理、ストレスマネジメントの留意点の理解</p>
合計	6.0時間	3.0時間	3.0時間		

5 介護におけるコミュニケーション技術（6時間）					
項目名	時間数	通学時間	通信時間	添削課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
1) 介護における コミュニケーション	3.0時間	1.5時間	1.5時間	5-1-1 ～ 5-1-4	<p>【講義内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 ・相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮、傾聴共感の応答 コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション ・言語的コミュニケーションの特徴、非言語コミュニケーションの特徴を理解する 利用者・家族とのコミュニケーションの実際 ・利用者の思いを把握する、意欲低下の要因を考える、利用者の感情に共感する、家族の心理的理解、家族へのいたわりと励まし、信頼関係の形成、自分の価値観で家族の意向を判断し非難することがないようにする、アセスメントの手法とニーズとデマンドの違いを理解する 利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際 ・視力、聴力の障害、失語症、構音障害、認知症に応じたコミュニケーション技術を学ぶ <p>【演習】 利用者・家族とのコミュニケーションの実際状況に応じたロールプレイングを行い、それぞれの立場の理解、気持ち等を学ぶ。</p> <p>【通信課題】 バイステイクの7原則に基づく、傾聴、共感的態度等の理解及びコミュニケーション留意事項</p>
2) 介護における チームのコミュニケーション	3.0時間	1.5時間	1.5時間	5-2-1 ～ 5-2-6	<p>【講義内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 記録における情報の共有化 ・介護における記録の意義・目的、利用者の状況を踏まえた観察と記録、介護に関する記録の種類、個別援助計画書、ヒヤリハット報告書、5W1Hについて学ぶ 報告・連絡・相談 ・報告の留意点、連絡の留意点、相談の留意点について理解する コミュニケーションを促す環境 ・会議、情報共有の場、役割の認識の場、ケアカンファレンスの重要性について理解する <p>【演習】 記録、報告等について、ロールプレイングを行い、情報の共有の重要性を理解する</p> <p>【通信課題】 介護記録での情報共有理解、カンファレンス進行の留意事項</p>
合計	6.0時間	3.0時間	3.0時間		

6 老化の理解（6時間）					
項目名	時間数	通学時間	通信時間	添削課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
1) 老化に伴うこと からだの変化と日常	3.0時間	1.5時間	1.5時間	6-1-1 ～ 6-1-4	<p>【講義内容】</p> <p>1. 老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老化のメカニズム ・老化の特徴 <p>2. 老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老化による日常生活への影響 <p>【演習】</p> <p>老いについての機能変化、生活上での影響や問題点について、個人ワークにてまとめたあとグループでディスカッションを行い、理解を深める</p> <p>【通信課題】</p> <p>加齢に伴う、心身・社会・知的面の変化の理解</p>
2) 高齢者と健康	3.0時間	1.5時間	1.5時間	6-2-1 ～ 6-2-5	<p>【講義内容】</p> <p>1. 高齢者の疾病と生活上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・骨折、筋力低下と動き・姿勢の変化、関節痛等、生活上の留意点を学ぶ <p>2. 高齢者に多い病気等とその日常生活上の留意点</p> <p>【演習】</p> <p>高齢者の生活において、小さな病状変化への気付き、観察ポイントをグループでディスカッションを行い理解を深める。</p> <p>【通信課題】</p> <p>高齢者特有の疾病理解と介護職の観察ポイント</p>
合計	6.0時間	3.0時間	3.0時間		

7 認知症の理解(6時間)					
項目名	時間数	通学時間	通信時間	添削課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
1) 認知症を取り巻く状況	1.0時間	0.5時間	0.5時間	7-1-1 ～ 7-1-4	【講義内容】 1. 認知症ケアの理念 ・「生活者」としての理解 ・その人を中心としたケア（パーソン・センタード・ケアの理解） ・利用者本人の「感情」や「思い」をみていく ・認知症ケアの視点（できることに着目する） 【演習】 認知症の人の「感情」「思い」についてディスカッションを行い、理解を深める 【通信課題】 認知症対応及び症状の理解 パーソン・センタード・ケアの考え方
2) 医学的側面から見た 認知症の基礎と健康管理	1.5時間	1.0時間	0.5時間	7-2-1 ～ 7-2-5	【講義内容】 1. 認知症の概念 2. 認知症の原因疾患とその病態 3. 原因疾患別ケアのポイント 4. 健康管理 【通信課題】 認知症の原因疾患、特徴の理解
3) 認知症に伴うこころと からだの変化と日常生活	2時間	1.0時間	1.0時間	7-3-1 ～ 7-3-4	【講義内容】 1. 認知症の人の生活障害、心理、行動の特徴 ・中核症状、BPSD ・行動・心理症状 2. 認知症の利用者への対応 ・本人の気持ちを推察する、プライドを傷つけない、相手の世界にあわせる、失敗しないような状況をつくる、全ての行為がコミュニケーションであると考え、身体と通じたコミュニケーション、相手の様子・表情・視線・姿勢などから気持ちを洞察する、認知症の進行に合わせたケアを学ぶ 【演習】 認知症の人の心理・行動の特徴を理解し、利用者への対応をロールプレイングにて理解を深める。 【通信課題】 認知症対応のBPSDの心理症状理解
4) 家族への支援	1.5時間	0.5時間	1.0時間	7-4-1 ～ 7-4-4	【講義内容】 1. 認知症の受容過程での援助 ①家族の介護負担感 ②家族介護者へのエンパワメント ③家族のレスパイトケア 【演習】 家族の認知症受容過程での気持ちの変化にディスカッションを行い、理解を深める 【通信課題】 家族介護における心理と支援、受容過程の変化
合計	6.0時間	3.0時間	3.0時間		

8 障害の理解（3時間）					
項目名	時間数	通学時間	通信時間	添削課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
1) 障害の基礎的理 解	1.0時間	0.5時間	0.5時間	8-1-1 ～ 8-1-3	【講義内容】 1. 障害の概念とICF ・ICFの分類と医学的分類、ICFの考え方について理解する 2. 障害者福祉の基本理念 ・ノーマライゼーションの概念について理解する 【通信課題】 ICF/ICIDHの概念の比較と理解
2) 障害の医学的側面、生活 障害、心理・行動の特 徴、かかわり支援等の基 礎的知識	1.0時間	0.5時間	0.5時間	8-2-1 ～ 8-2-9	【講義内容】 1. 身体障害 2. 知的障害 3. 精神障害 4. その他の心身の機能障害 ・各障害の特性や介護上の留意点について学ぶ 【通信課題】 障害の医学的理解と症状における介護の留意点
3) 家族の心理、かかわり支 援の理解	1.0時間	0.5時間	0.5時間	8-3-1 ～ 8-3-3	【講義内容】 1. 家族への理解 ・障害の理解・障害の受容支援 ・介護負担の軽減 【演習】 障害への受容プロセスについてデッスカッションを 行い理解する 【通信課題】 障害受容の考え方について
合計	3.0時間	1.5時間	1.5時間		

9 こころとからだのしくみと生活支援技術（75時間）						
基本知識の 学習	項目名	時間数	通学時間	通信時間	添削課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
	1) 介護の基本的な考え方	5.5時間	3.5時間	2時間	9-1-1 ～ 9-1-7	【講義内容】 1. 理論と法的根拠に基づく介護 ・介護に関する専門的知識・技術の必要性 ・ICFの視点に基づく生活支援 ・我流介助の排除 【演習】 介護職に求められるICFの視点について、 グループにてICF構造と特徴を理解する。 【通信課題】 介護の基本的な考え方について
	2) 介護に関するこころの 仕組みの基礎的理解	3.5時間	1.5時間	2時間	9-2-1 ～ 9-2-6	【講義内容】 1. 学習と記憶の基礎知識 2. 感情と意欲の基礎知識 3. 自己概念と生きがい 4. 老化や障害を受け入れる適応行動とその阻 害要因 【演習】 老化や障害を受け入れる適応行動及び心の状 態により与える影響についてディスカッショ ンにて理解する。 【通信課題】 老年期のこころのしくみ、人間関係の特徴、 老化の過程への適応の理解

生活支援技術の講義・演習	3) 介護に関するからだの仕組みの基礎的理解	3.5時間	1.5時間	2時間	9-3-1 ～ 9-3-7	【講義内容】 1. 人体各部の名称と動きに関する基礎的知識 2. 骨・関節・筋に関する基礎知識 3. 中枢神経系と末梢神経に関する基礎知識 4. 自律神経と内部器官に関する基礎知識 5. こころとからだを一体的に捉える 【演習】 生活上における、異変症状をグループ内にて列挙し、その観察のポイントや気づきについてディスカッションを行い理解する。 【通信課題】 人体の機能と構造、身体のおしよりの理解
	4) 生活と家事	5.0時間	3.0時間	2時間	9-4-1 ～ 9-4-9	【講義内容】 1. 家事と生活の理解 ①家事と生活の理解 ②自立生活を支える家事 2. 家事援助に関する基礎的知識と生活支援 ①代表的なサービス内容 ②家事援助のポイント 【演習】 介護の基本的領域の理解と配慮について、グループでディスカッションを行い、理解を深める。 【通信課題】 生活支援に関する基本的な考え方の理解
	5) 快適な居住環境整備と介護	3.5時間	2時間	1.5時間	9-5-1 ～ 9-5-7	【講義内容】 1. 快適な居住環境に関する基礎知識 2. 高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法 【演習】 実際に福祉用具に触れることにより、上記1.2の内容の理解を深める。 【通信課題】 快適な環境づくりの基礎知識の理解
	6) 整容に関連したこころからだのしよみと自立に向けた介護	6.0時間	6.0時間	0時間		【講義内容】 1. 整容に関する基礎知識 ①身じたくの意義と目的 ②衣服の着脱の基本的手順 2. 整容の支援技術 ①整容行動 ①洗面の意義と目的 【演習】 ・整容 ・身支度 ・衣服の着脱介助（座位、臥位での更衣）
	7) 移動・移乗に関連したこころからだのしよみと自立に向けた介護	7.0時間	7.0時間	0時間		【講義内容】 1. 移乗に関する基礎知識 ①移動の意義 ②ボディメカニクスの基本原理 2. さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法 3. 杖歩行介助、視覚障害者への支援方法、利用者、介助者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害する心と体の要因の理解と支援方法、移動と社会参加の留意点と支援 【演習】 グループ分けし実技演習を行う ・車椅子介助の留意点、操作方法 ・杖歩行介助 ・視覚障害者の歩行介助 ・ベッド上での体位変換（仰臥位⇔側臥位、仰臥位⇔端座位） ・移乗介助（ベッド⇔車椅子）

8) 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6.5時間	6.5時間	0時間		<p>【講義内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 食事にに関する基礎知識 2. 咀嚼、嚥下のメカニズム 3. 食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ 4. 楽しい食事を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 5. 口腔ケアの支援方法 <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・口腔内が乾燥した状態での嚥下の難しさを体感する ・ミキサー食、軟らか食等、さまざまな食事形態を試食し、食事の見た目の大切さや食感の違いを理解する ・飲料水についてはトロミ剤使用する ・食事時の姿勢に気をつけ、座位時の介助 ・口腔ケア
9) 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7.0時間	7.0時間	0時間		<p>【講義内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 入浴、清潔保持に関連した基礎知識 2. さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法、 3. 楽しい入浴を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 4. 清拭方法、洗髪、部分浴の支援方法 <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入浴に関する介護（入浴、手浴、足浴、洗髪） ・全身清拭
10) 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6.5時間	6.5時間	0時間		<p>【講義内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 排泄に関する基礎知識 2. 排泄環境整備と排泄用具の活用方法 3. 爽快な排泄を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 <p>【演習】</p> <p>グループ毎に技術演習を行い、羞恥心や排泄環境についても理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポータブルトイレを使用した介助 ・おむつ交換介助
11) 睡眠に関連したところとからだの仕組みと自立に向けた介護	5.0時間	5.0時間	0時間		<p>【講義内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 睡眠に関する基礎知識、 2. 睡眠環境整備と用具の活用方法、 3. 快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・褥瘡予防関連、睡眠のための環境整備として、基本的なベッドメイキングの技術を身に付ける。 ・利用者がベッドに寝た状態でのシーツ交換の方法技術を身に付ける。
12) 死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護	4.0時間	2.0時間	2時間	9-9-1 ～ 9-9-7	<p>【講義内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終末期に関する基礎知識とところとからだのしくみ 2. 生から死への過程、「死」に向き合うところの理解 3. 苦痛の少ない死への支援 <p>【演習】</p> <p>死に向き合う心の理解について、対象者及び家族の視点にてデッサクションを行い、介護従事者としての基本的態度を理解する。</p> <p>【通信課題】</p> <p>終末期に関する基礎知識の理解</p>

生活支援技術演習	13) 介護過程の基礎的理解	6.0 時間	【講義内容】 1. 介護過程の目的・意義・展開 2. 介護過程とチームアプローチ 【演習】 事例を基に介護過程の目的・意義・展開・チームアプローチ等を理解する グループで話し合い、理解を深める
	14) 総合生活支援技術講	6.0 時間	【講義内容】 ・具体的な生活場面を想定した事例を基に介護展開 ・事例による展開として、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、 利用者の心身の状況にあわせた介護を提供する視点の習得を目指す 【演習】 事例より一連の利用者の生活・身体状態等を把握し、課題の沿いながら実技演習を進めていき過不足ない援助について理解する
	合計	90.0 時間	

10 振り返り (4 時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
1) 振り返り	3.0 時間	【講義内容】 1. 研修を通して学んだことを振り返り、ポイントの再確認 2. 今後継続的に学ぶこと 3. 根拠に基づく介護についての要点 【演習】 全課程を振り返り、利用者視点での介護のあり方・根拠に基づく介護技術等、ディスカッションを通して振り返り理解する
2) 就業への備えと 研修修了後における実例	1.0 時間	【講義内容】 1. 継続的に学ぶべきこと 2. 研修修了後における継続的な研修について 【演習】 ・介護従事者として継続的な学びの必要性について理解し、スキルアップ研修の種類、キャリアパスイメージ等、ディスカッションを通し就労後の介護従事者としてのイメージを描く ・これからの介護職のあり方、また何が求められているかについてグループで話し合う
合計	4.0 時間	
全カリキュラム合計時間	130 時間	